

岡山県感染症週報 2013 年 第 41 週 (10 月 7 日～ 10 月 13 日)

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』発令中です。

◆2013 年 第 41 週 (10/7～ 10/13) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第 39 週	2 類感染症	結核	1 名 (80 代 男)
	5 類感染症	後天性免疫不全症候群	1 名 (30 代 男)
第 40 週	3 類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	1 名 (O26: 20 代 女)
第 41 週	2 類感染症	結核	2 名 (30 代 女 1 名、60 代 男 1 名)
	3 類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	1 名 (O26: 幼児 女)
	4 類感染症	日本紅斑熱	1 名 (60 代 男)

■定点把握感染症発生状況

- RS ウイルス感染症は、県全体で 44 名 (定点あたり 0.46 → 0.81 人) の報告があり、前週より大きく増加しました。
- A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で 41 名 (定点あたり 0.76 人) の報告があり、3 週連続で増加しています。
- 手足口病は、県全体で 65 名 (定点あたり 1.33 → 1.20 人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。

【第 42 週 速報】

- 腸管出血性大腸菌感染症 1 名 (O26: 幼児 女) の発生がありました。(10 月 16 日)

1. **日本紅斑熱**は、第 41 週に 1 名の発生報告がありました。岡山県では、今年初めての発生報告となります。この感染症は、病原リケッチアを保有するマダニに刺されることで感染し、春から初冬にかけて発生します。作業やレジャーなどで野山や草むらに入るときは、マダニに刺されないよう注意しましょう。症状は「発熱」「発しん」「刺し口」が特徴です。野山や草むらに入った後数日して高熱がでて赤い発しんがある時は、速やかに医療機関を受診してください。また、医療機関を受診した時に、野山に入ったことも伝えてください。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ「[『日本紅斑熱』に注意しましょう。](#)」及び、「[ダニが媒介する感染症に注意しましょう](#)」をご覧ください。
2. **腸管出血性大腸菌感染症**は、第 40 週に 1 名、第 41 週に 1 名の発生報告がありました。岡山県のこれまでの報告累計は 70 名となっています。県では、7 月 10 日に「腸管出血性大腸菌感染症注意報」を発令し、注意喚起を図っています。例年、最も発生報告が多いのは 8 月ですが、10 月も過去 5 年の月間平均患者数が 10.6 人となっていますので、ひきつづき注意してください。手洗い等を徹底するとともに、食品は冷蔵庫で保存し、調理後はできるだけ速やかに食べる、食肉は中心部まで火を通すなど、感染予防に努めましょう。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ「[腸管出血性大腸菌感染症注意報 発令中!](#)」をご覧ください。
3. **RS ウイルス感染症**は、県全体で 44 名 (定点あたり 0.46 → 0.81 人) の報告があり、前週より大きく増加しました。詳しくは『[今週の注目感染症](#)』をご覧ください。
4. **A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎**は、県全体で 41 名の報告があり、3 週連続で増加しています (定点あたり 0.28 → 0.46 → 0.59 → 0.76 人)。地域別では、倉敷市 (1.73 人)、岡山市 (1.36 人) で、定点あたり報告数が多くなっています。第 41 週の年齢別発生状況は、6-7 歳 32%、4-5 歳 19%、0-1 歳 15% の順で多くなっています。
5. **手足口病**は、県全体で 65 名 (定点あたり 1.33 → 1.20 人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。地域別では、倉敷市 (2.45 人)、備中地域 (2.00 人)、備前地域 (1.30 人) の順で、定点あたり報告数が多くなっています。県全体としての報告数は減少していますが、備中地域や備前地域など、報告数が増加している地域もありますので、ひきつづき、手洗い・うがいなどの感染予防に努めましょう。
6. **風しん**は、第 41 週の発生報告はありませんでした。岡山県のこれまでの報告累計は 74 名となっています。全国の第 40 週までの累計報告数は、14,145 名で、第 33 週以降は 1 週間の発生報告数が昨年同時期を下まわっているものの、依然、患者の発生が続いています。詳しくは『[風しん情報](#)』をご覧ください。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ			RSウイルス感染症		★★
咽頭結膜熱		★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		★
感染性胃腸炎		★★	水痘		★
手足口病		★	伝染性紅斑		
突発性発疹		★★	百日咳		
ヘルパンギーナ		★	流行性耳下腺炎		★
急性出血性結膜炎			流行性角結膜炎		★
細菌性髄膜炎		★	無菌性髄膜炎		
マイコプラズマ肺炎		★	クラミジア肺炎		

【記号の説明】 前週からの推移: : 2 倍以上の減少 : 1.1~2 倍未満の減少 : 1.1 未満の増減
 : 1.1~2 倍未満の増加 : 2 倍以上の増加
発生状況: 空白: 発生なし ★: 僅か ★★: 少し ★★★: やや多い ★★★★: 多い ★★★★★: 非常に多い
※今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。

【医療機関の方へのお知らせ】

感染症法の届出基準等が一部改正されました。(平成 25 年 10 月 14 日施行)

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行規則の一部を改正する省令(平成 25 年 9 月 30 日厚生労働省令第 114 号)」が公布されました。
これにともない、感染症法の届出基準・届出様式が改正されました。

【改正の概要】

1. ロタウイルスによる感染性胃腸炎を、基幹定点医療機関による届出対象疾病とする。なお、小児科定点医療機関による感染性胃腸炎の届出については、原因ウイルス等による区別をすることなく、従前どおり実施する。

○ [感染症発生動向調査事業実施要綱新旧対照表](#)

○ [届出基準・届出様式新旧対照表](#)

○ 届出基準が変更になった感染症

2 類感染症
・急性灰白髄炎 ・結核
5 類感染症 (基幹定点医療機関の届出: 週報)
・感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る。)(新規)

○ 届出様式が変更になったもの

2 類感染症
・結核
5 類感染症 (小児科定点医療機関の届出: 週報)
5 類感染症 (基幹定点医療機関の届出: 週報)

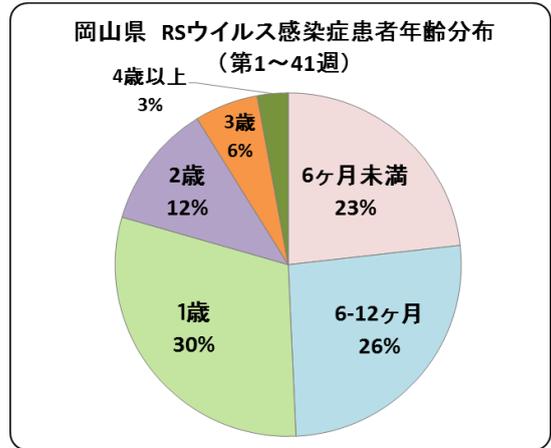
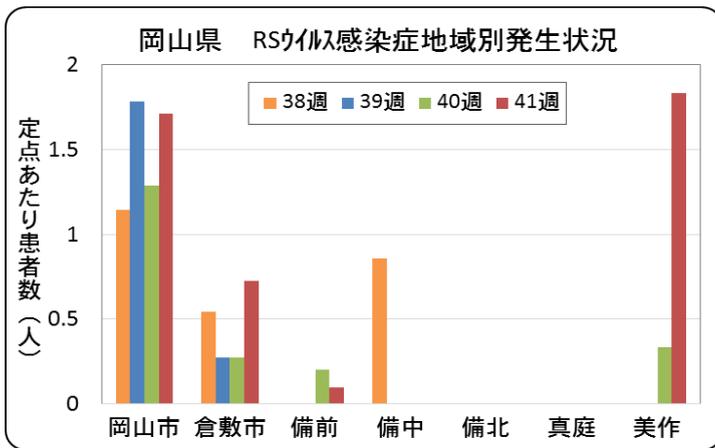
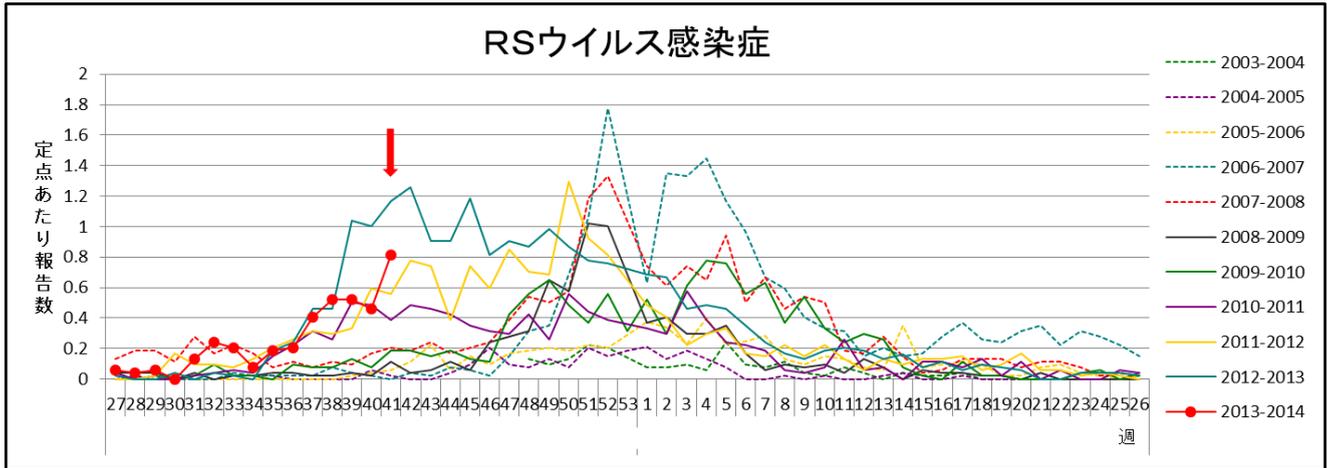
詳しくはこちらをご覧ください。

○ [感染症法に基づく医師の届出のお願い\(厚生労働省ホームページ\)](#)

今週の注目感染症

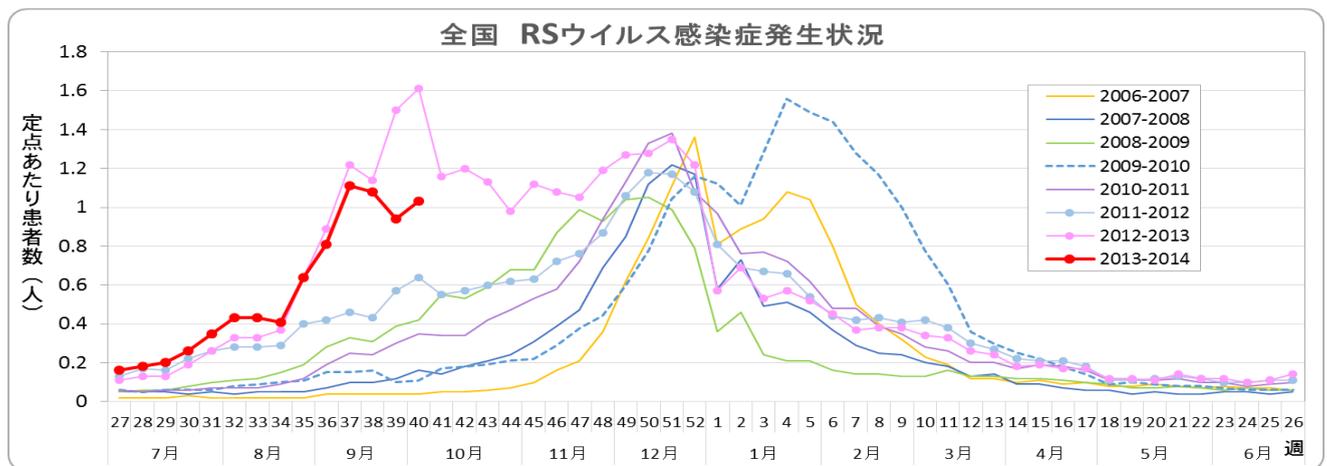
1. RSウイルス感染症

岡山県の発生状況グラフ



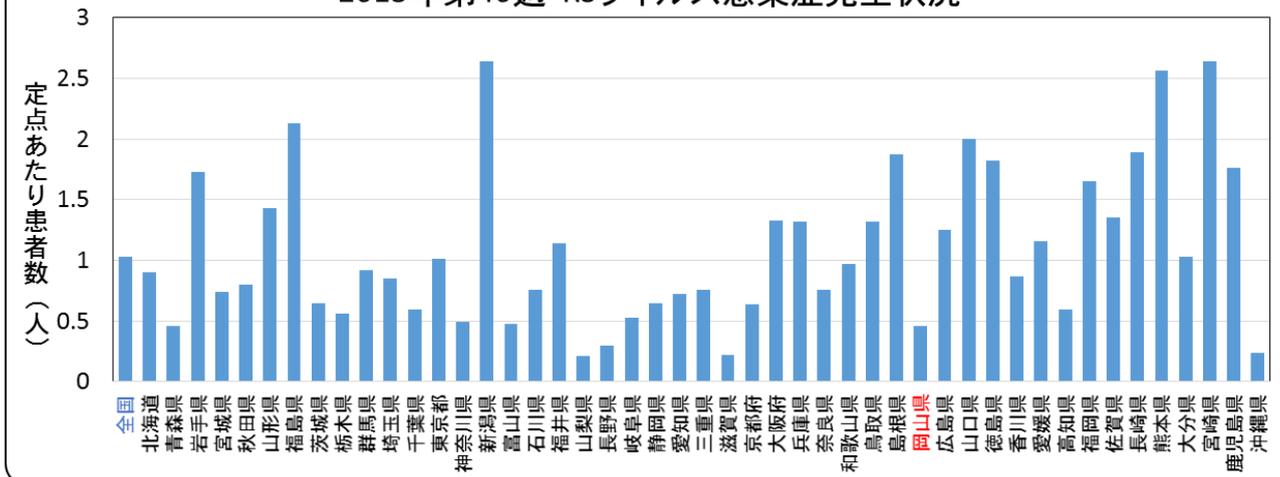
RSウイルス感染症は、第38週から報告数が横ばいで推移していましたが、第41週には県全体で44名（定点あたり0.46→0.81人）の報告があり、前週より大きく増加しました。この感染症は、秋から冬にかけて多くの患者が報告されており、今後さらに患者数が増加する恐れがあります。ひきつづき発生状況に注意してください。地域別では、美作地域（1.83人）、岡山市（1.71人）、倉敷市（0.73人）の順で、定点あたり報告数が多くなっており、美作地域で大きく増加しました。年齢別では、6ヶ月未満 23%、6-12ヶ月 26%、1歳 30%と、1歳以下の乳児が79%を占めています。

【全国のRSウイルス感染症発生状況】



全国の第40週までの発生状況を見ると、2012年と同様の早い立ち上がりとなったあとは、第37週頃から増減をしながら横ばいで推移しています。RSウイルス感染症の報告数は、2011年頃からは流行の立ち上がりが早まってきているものと推察されており、2010年以前に比べると、早い時期から多くの患者が報告されています。RSウイルス感染症は、大人では軽い風邪の様な症状で軽快しますが、乳幼児などでは、重症化して肺炎や細気管支炎といった重篤な症状を引き起こすことがあるため、乳幼児の感染予防に努めましょう。

2013年第40週 RSウイルス感染症発生状況



広島県（1.25人）、鳥取県（1.32人）、山口県（2.00人）、島根県（1.87人）など、近隣の県での定点あたり報告数が、岡山県よりも多くなっていますので、今後の県内の発生状況に注意するとともに、手洗い、うがい、マスクの着用等、感染予防に努め、お子さんの体調が悪いときは、早めに医療機関を受診してください。

【RSウイルス感染症とは】

RSウイルスに感染することで発症する急性呼吸器感染症です。潜伏期は2～8日で、発熱、鼻汁、咳などで発症し、軽度の感冒様症状から、重症の肺炎や細気管支炎などの下気道疾患を発症する場合までさまざまです。症状は7～12日で軽快し、成人では通常、感冒様症状を起こすのみですが、初感染の場合は下気道疾患を引き起こす危険性が高くなります。母体からの移行抗体では感染を防ぐことができず、乳幼児期（特に生後6ヶ月以内）に感染すると、高い確率で肺炎や細気管支炎などの重篤な症状を引き起こします。乳幼児において、肺炎の約50%、細気管支炎の50～90%はこのウイルスによるものと報告されています。また、低出生体重児や、心肺系の基礎疾患、免疫不全等がある場合には重症化のリスクが高くなります。重篤な合併症として、無呼吸発作、急性脳炎等があり、1歳以下の乳児では、中耳炎の合併も多く報告されています。年齢を問わず、生涯にわたり感染・発症を繰り返しますが、通常は年齢が上がるにつれて、重症化しにくくなります。

【治療・予防】

特効薬はなく、治療は対症療法が中心です。感染力が強く、主な感染経路は咳やくしゃみなどによる飛沫感染と、飛沫に汚染された手指や物品からの接触感染です。学校や保育施設などでは集団発生することもあります。RSウイルスは眼や鼻からも感染すると考えられているため、体調の変化に応じてマスクを着用する等、咳エチケットを心がけましょう。また、年長児や大人では感染に気づかず子供にうつしてしまうこともあります。咳等の呼吸器症状がある年長児や大人は、可能な限り1歳以下の小児との接触を避けることが、乳幼児の感染予防に繋がります。1歳以下の小児と日常的に接する方は、咳などの呼吸器症状がある場合はマスクを着用しましょう。小児が日常的に触れるおもちゃ、手すりなどを、こまめにアルコールや塩素系消毒剤等で消毒し、流水・石けんによる手洗い・アルコール製剤による手指の消毒等を行うことが、接触感染の予防となります。

[\(RSウイルス感染症に関するQ&A \(平成25年9月25日\)\) \(厚生労働省\)](#)

季節の変わり目です。体調に注意しましょう。

10月に入り、気温の変動が大きくなってきています。急な冷え込みなどにより、体調を崩しやすい時期ですので、お子さんの体調の変化に注意し、体調が悪いときには早めに医療機関を受診しましょう。

咳やくしゃみなど体調の変化を感じたら、早めにマスクを着用し咳エチケットを心がけるとともに、手洗い・うがい等に努めましょう。

風しん情報

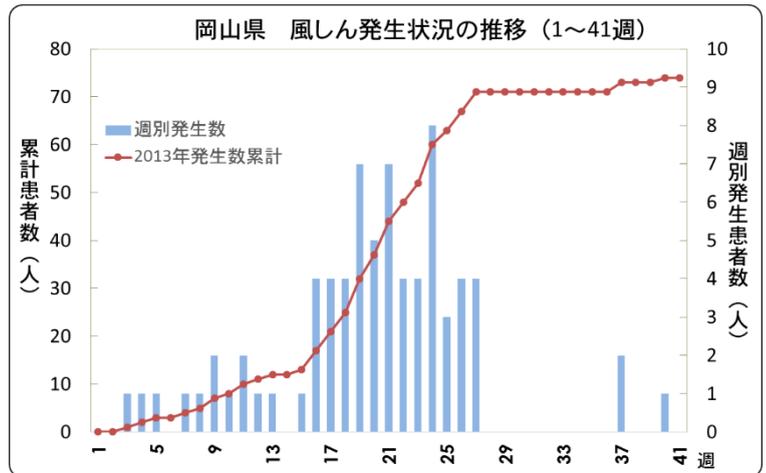
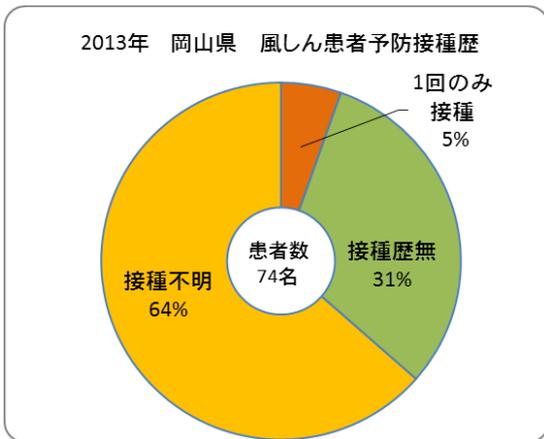
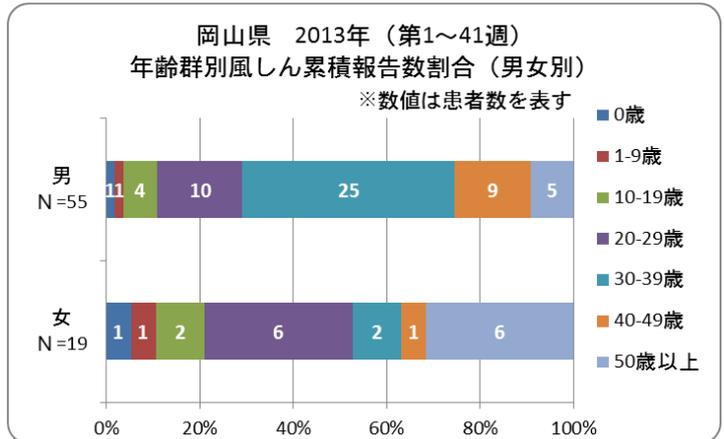
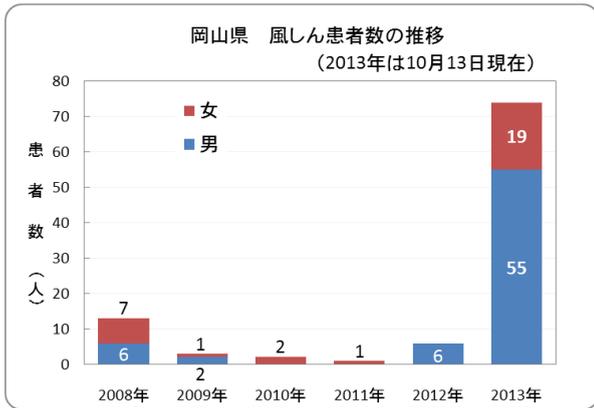
風しんは、「三日ばしか」とも呼ばれ、感染症発生動向調査において全数把握感染症の5類感染症であり、医師は風しん患者を診断したときには、7日以内に最寄りの保健所に届出ることになっています。

今年は、関東地方・近畿地方を中心に多数の患者が発生しています。風しんは、せき、くしゃみ等の飛沫により感染します。全身性の発しん、発熱、リンパ節腫脹などの症状がでた場合は、風しんの可能性がありますので早めに医療機関を受診してください。

[\(国立感染症研究所 風しんQ&A\)](#)

【岡山県の風しん発生状況】

岡山県では、第41週の発生報告はありませんでした。岡山県のこれまでの報告累計は74名となっています。患者は、全国集計同様20～30代の男性が中心であり、予防接種歴は、接種歴無しが23名、接種不明が47名、1回のみ接種が4名でした。

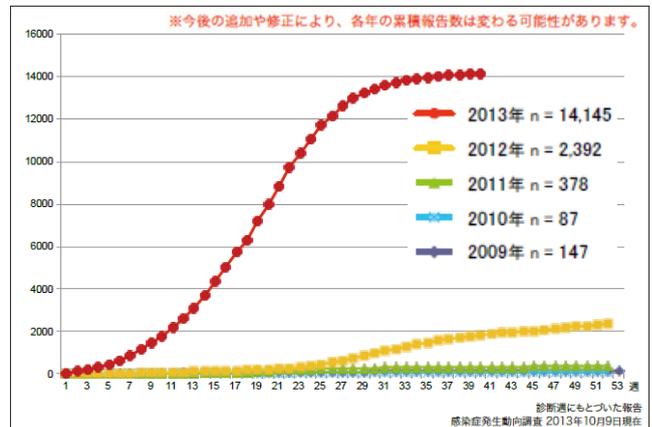


【全国の風しん発生状況】

今年、全国の第40週までの累計報告数は14,145名であり、第33週以降は1週間の発生報告数が昨年同時期を下まわっているものの、依然、患者の発生が続いています。患者の約8割は男性で、そのうち20～40代が82%を占めています。また女性は、20～30代が56%を占めています。この年齢層は、風しんの予防接種を受ける機会がなかったか、集団接種から個別接種に切り替わったため、接種率が低く、抗体保有率が低い年齢層とされています。

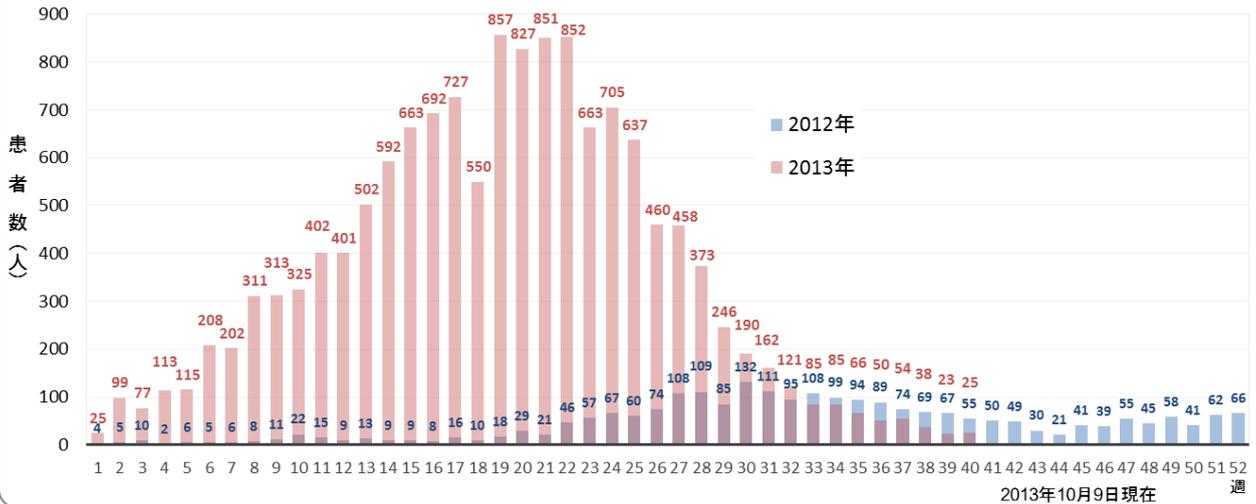
妊婦が風しんにかかり胎児に障がいが発生する**先天性風しん症候群 (CRS)** は、2012年は4名でしたが、2013年は10月8日までに、すでに14名の発生がありました。

[\(先天性風しん症候群\(CRS\)の報告 \(2013年10月8日現在\) \(国立感染症研究所\)\)](#)

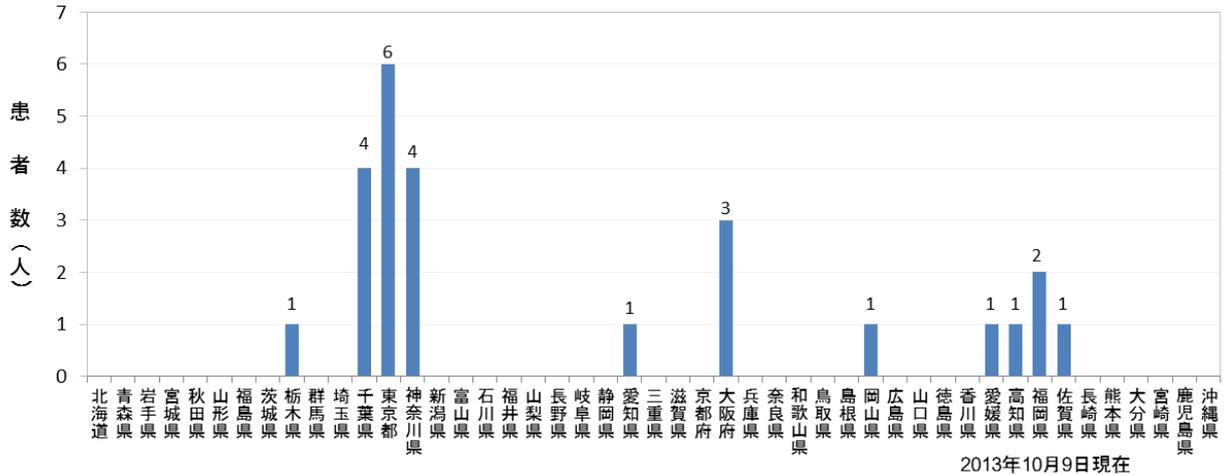


全国風しん累積報告数の推移 2009～2013年(第1～40週)
国立感染症研究所 感染症疫学センターホームページより

全国 風しん患者の週別発生状況 (2012年～2013年)



都道府県別風しん報告数 2013年 第40週 (n=25)



【風しんの予防接種を受けましょう。】

風しんの有効な予防方法は、予防接種を受けることです。

風しんの定期予防接種対象者（1歳児、小学校入学前1年間の幼児）は、積極的に予防接種を受けましょう。また、定期予防接種の対象者以外の方でも、風しんの抗体価が十分であると確認ができた方以外の方は、任意での予防接種を受けることをご検討ください。予防接種については、市町村の予防接種担当課へご相談ください。

風しんの予防接種を受ける場合は、麻しんの対策も考慮し、麻しん風しん混合ワクチン（MR ワクチン）を接種することが推奨されています。

[おかやま医療情報ネット](#)から、予防接種を実施している医療機関を検索することができます。ワクチンの在庫及び、予防接種の予約等については、各医療機関にお問い合わせください。

保健所別報告患者数 2013年 41週 (2013/10/07～2013/10/13)

2013年10月16日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当														
インフルエンザ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	44	0.81	24	1.71	8	0.73	1	0.10	-	-	-	-	-	-	11	1.83
咽頭結膜熱	6	0.11	2	0.14	1	0.09	-	-	3	0.43	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	41	0.76	19	1.36	19	1.73	1	0.10	1	0.14	-	-	-	-	1	0.17
感染性胃腸炎	235	4.35	73	5.21	41	3.73	47	4.70	18	2.57	25	6.25	9	4.50	22	3.67
水痘	22	0.41	7	0.50	9	0.82	5	0.50	1	0.14	-	-	-	-	-	-
手足口病	65	1.20	10	0.71	27	2.45	13	1.30	14	2.00	-	-	1	0.50	-	-
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	17	0.31	9	0.64	3	0.27	2	0.20	1	0.14	2	0.50	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	2	0.04	2	0.14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	9	0.17	4	0.29	2	0.18	3	0.30	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	4	0.33	2	0.40	-	-	-	-	2	2.00	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	1	0.20	-	-	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	1	0.20	-	-	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2013年 41週 (2013/10/07～2013/10/13)

2013年10月16日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当														
インフルエンザ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	6	0.11	2	0.14	1	0.09	-	-	3	0.43	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	41	0.76	19	1.36	19	1.73	1	0.10	1	0.14	-	-	-	-	1	0.17
感染性胃腸炎	235	4.35	73	5.21	41	3.73	47	4.70	18	2.57	25	6.25	9	4.50	22	3.67
水痘	22	0.41	7	0.50	9	0.82	5	0.50	1	0.14	-	-	-	-	-	-
手足口病	65	1.20	10	0.71	27	2.45	13	1.30	14	2.00	-	-	1	0.50	-	-
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	2	0.04	2	0.14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	9	0.17	4	0.29	2	0.18	3	0.30	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	4	0.33	2	0.40	-	-	-	-	2	2.00	-	-	-	-	-	-

今週、岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2、レベル3に該当するものではありませんでした。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2013年 第41週 2013/10/07~2013/10/13)

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80~
インフルエンザ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

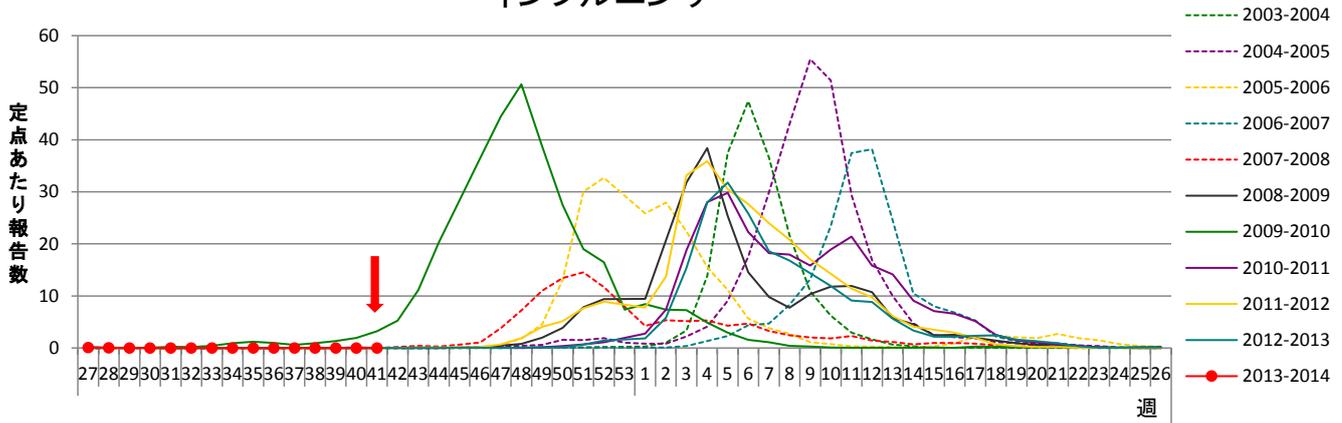
疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20~
RSウイルス感染症	44	2	15	19	4	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	6	-	1	3	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	41	1	1	4	2	2	3	5	4	9	2	3	5	-	-
感染性胃腸炎	235	10	25	38	28	14	18	14	9	10	11	2	17	11	28
水痘	22	1	2	7	1	1	3	2	4	1	-	-	-	-	-
手足口病	65	1	10	14	11	11	7	4	4	-	-	-	3	-	-
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	17	-	6	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	2	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	9	-	-	-	-	3	2	2	-	-	2	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70~
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	4	-	-	2	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-

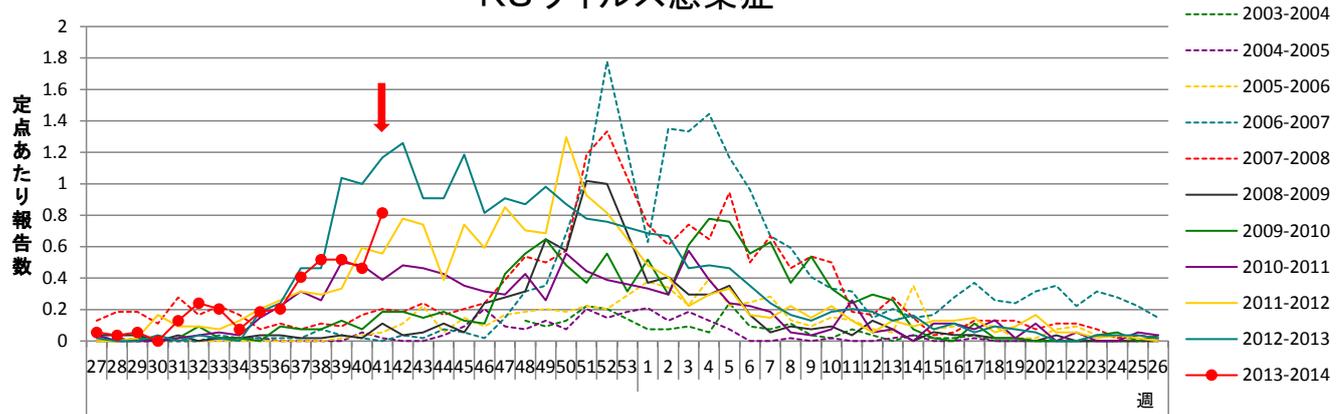
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70~
細菌性髄膜炎	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0)

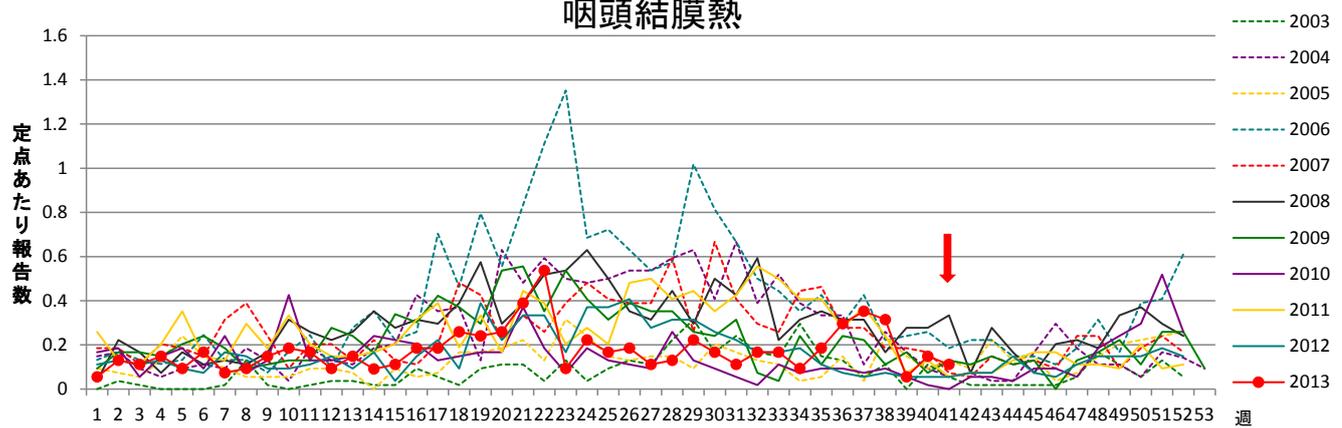
インフルエンザ



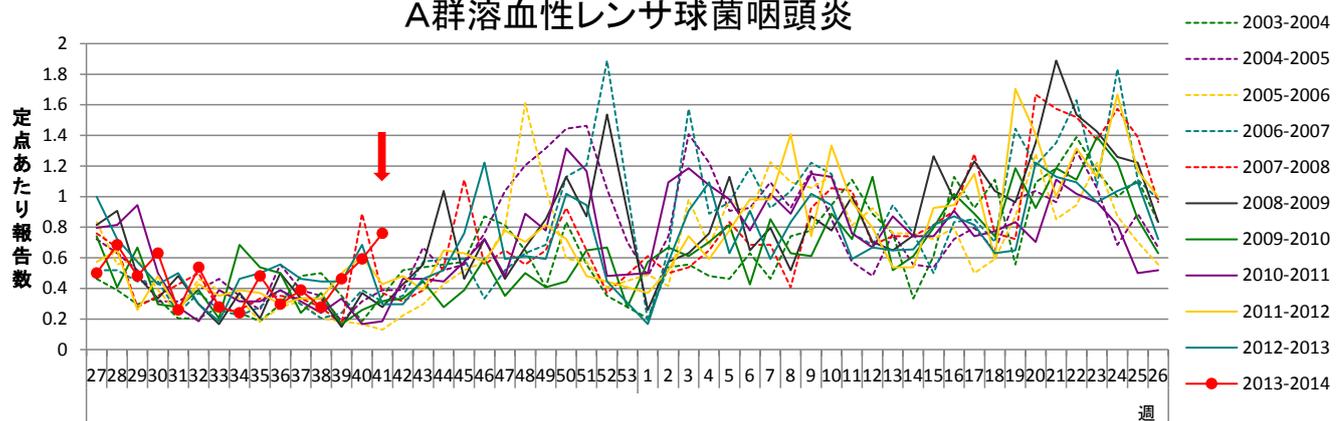
RSウイルス感染症



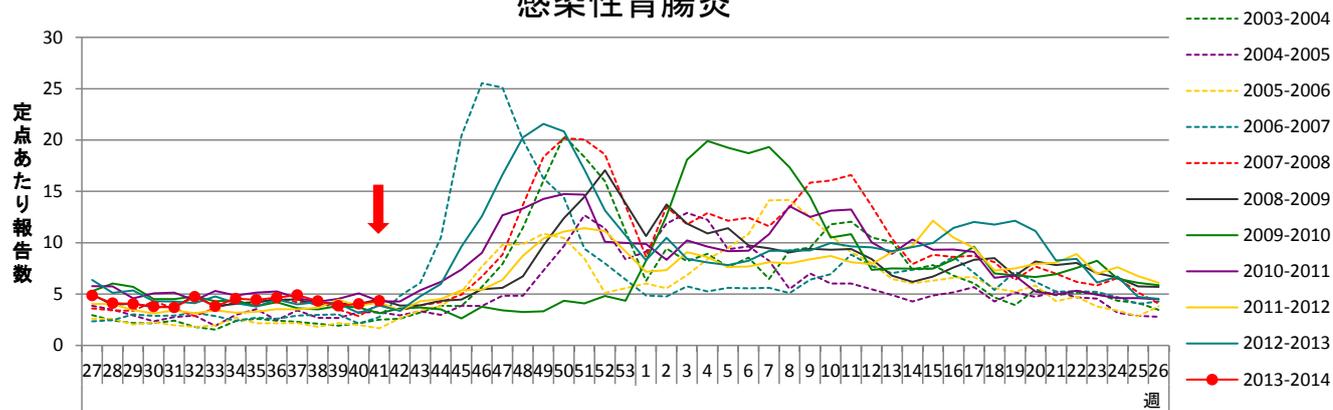
咽頭結膜熱



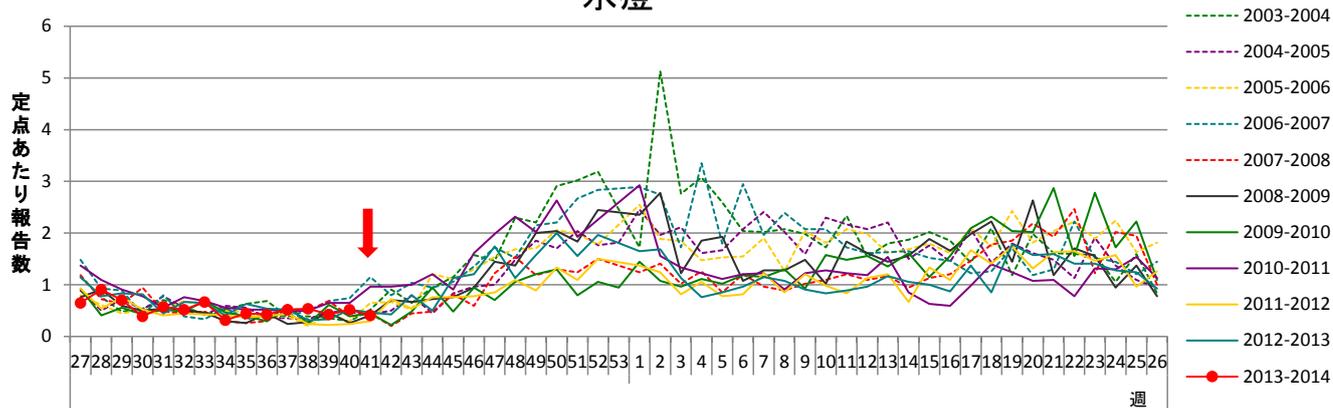
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



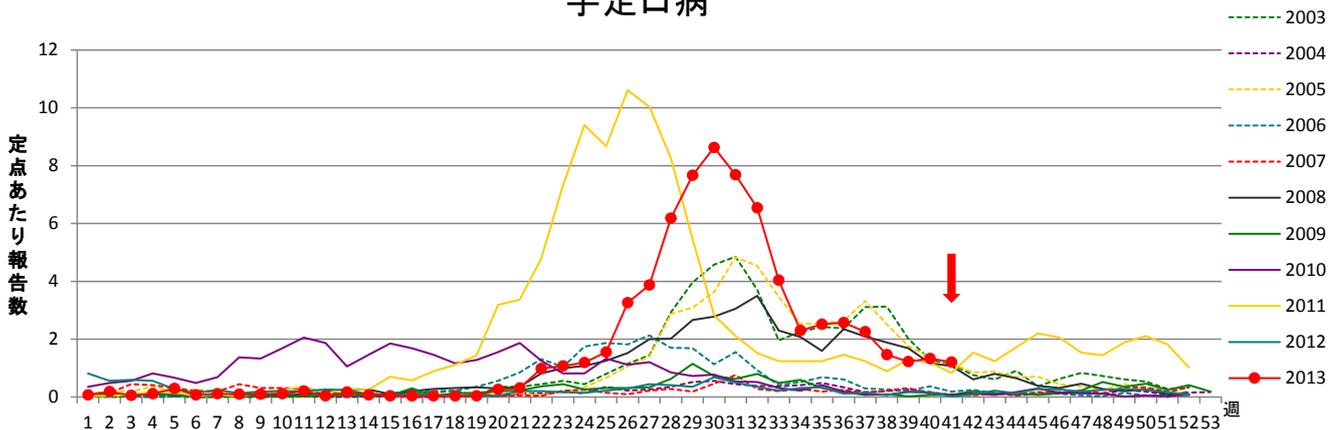
感染性胃腸炎



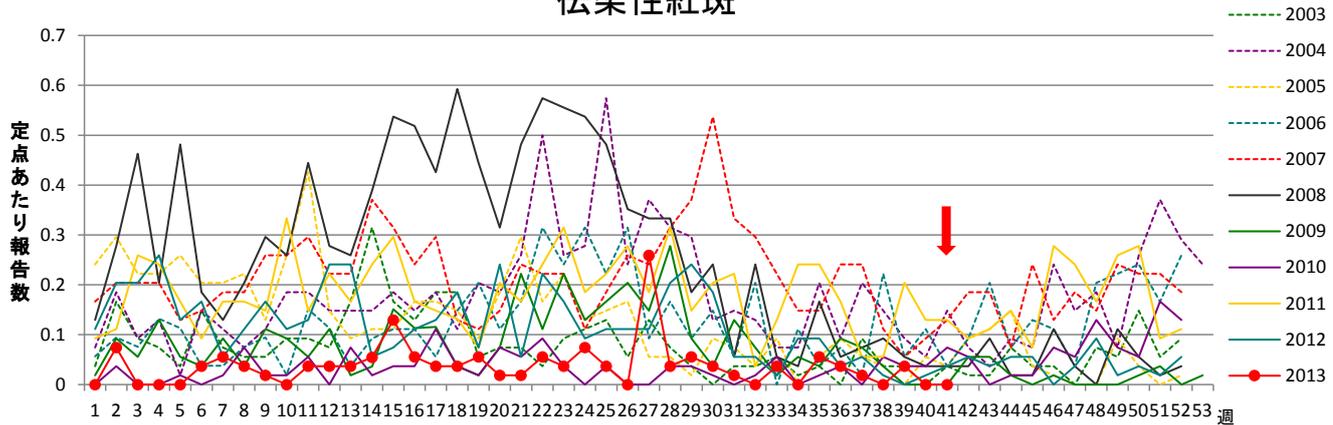
水痘



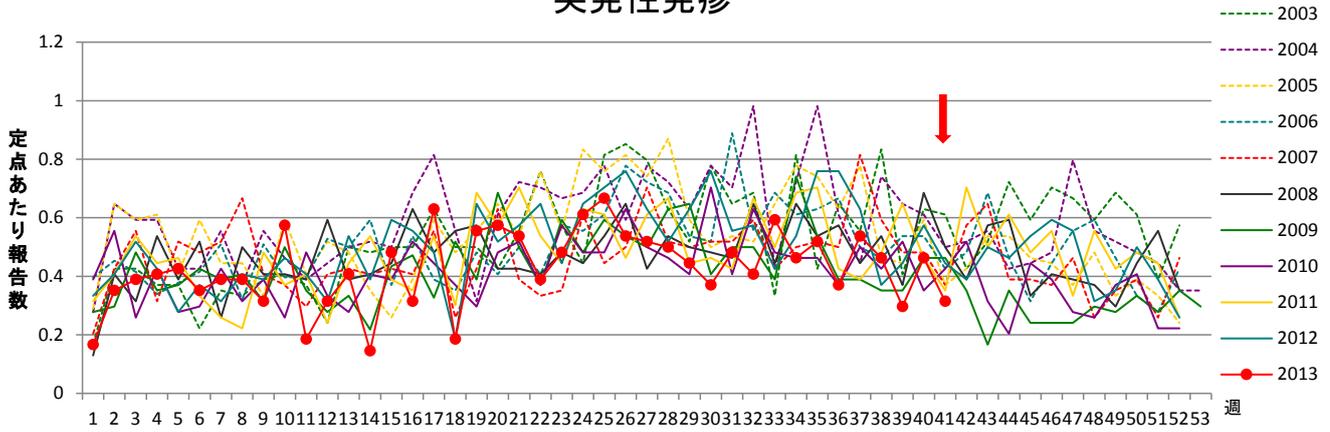
手足口病



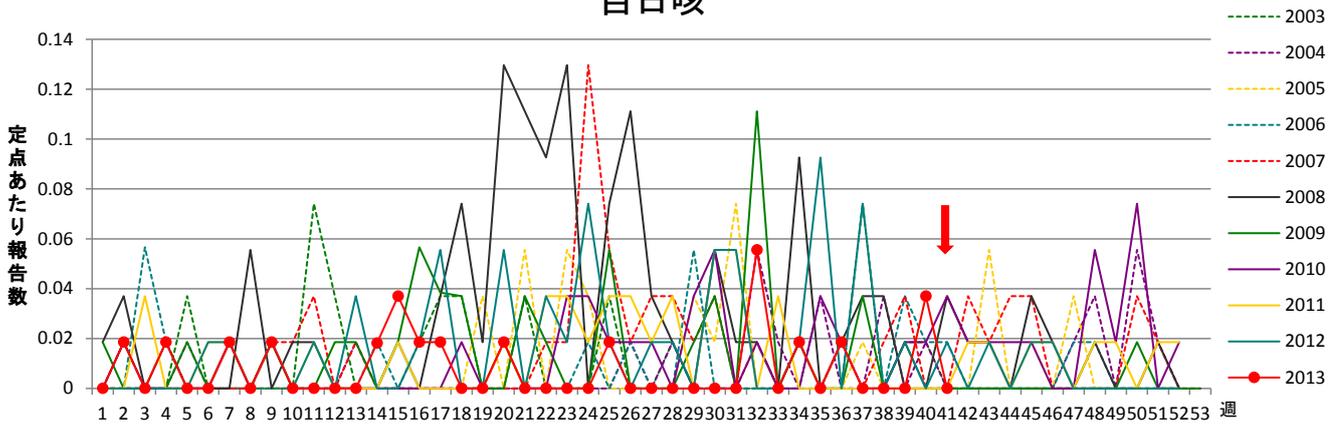
伝染性紅斑



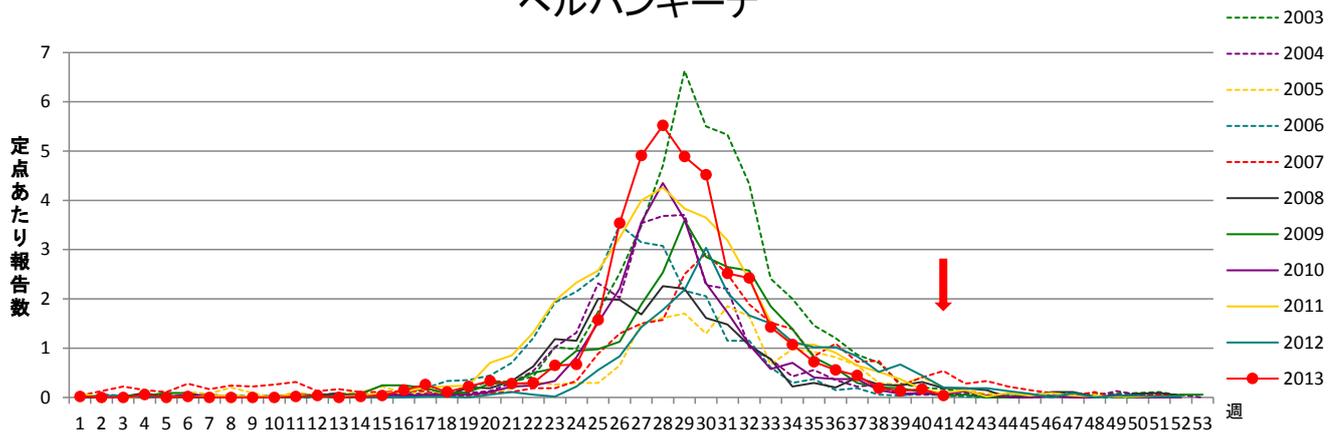
突発性発疹



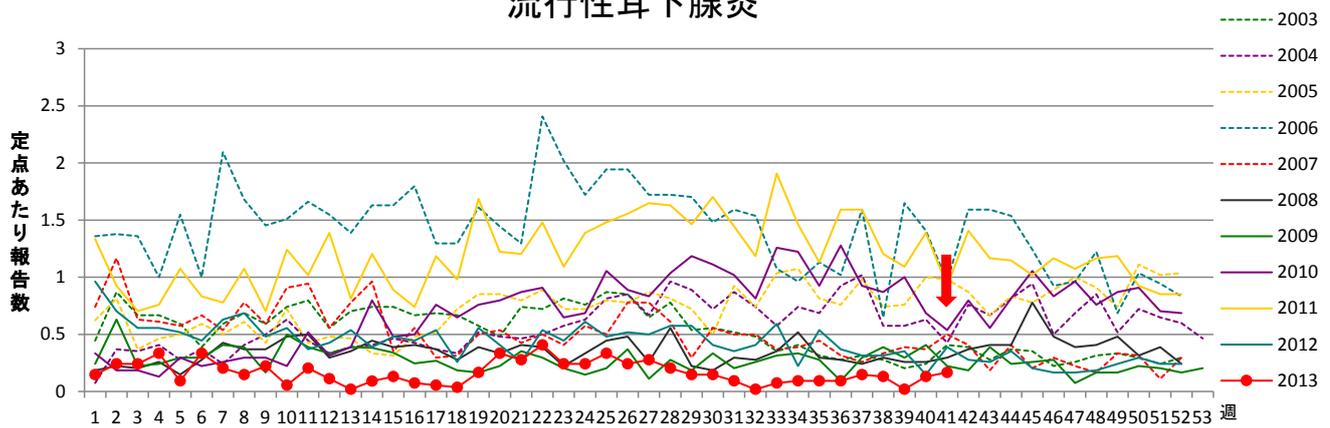
百日咳



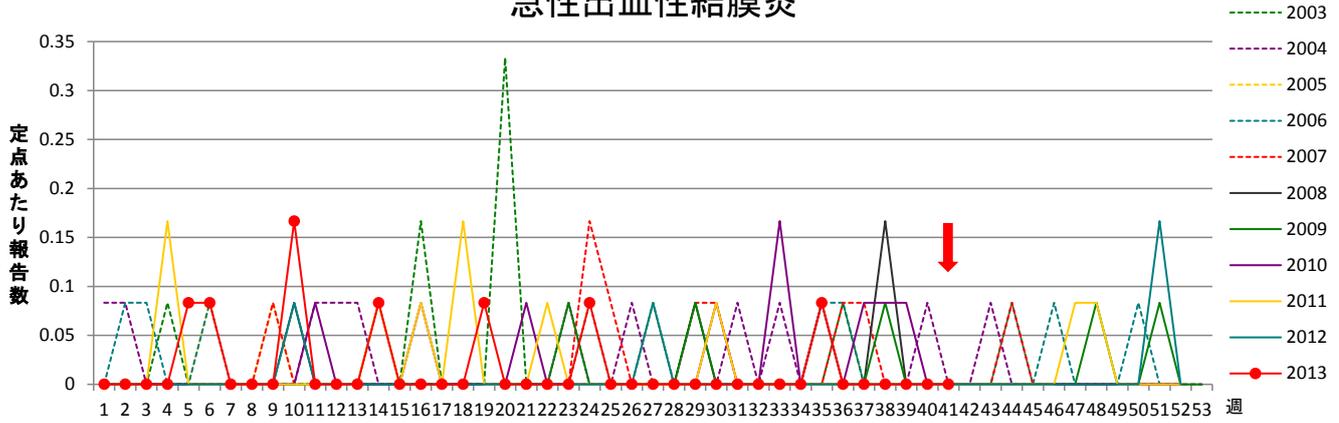
ヘルパンギーナ



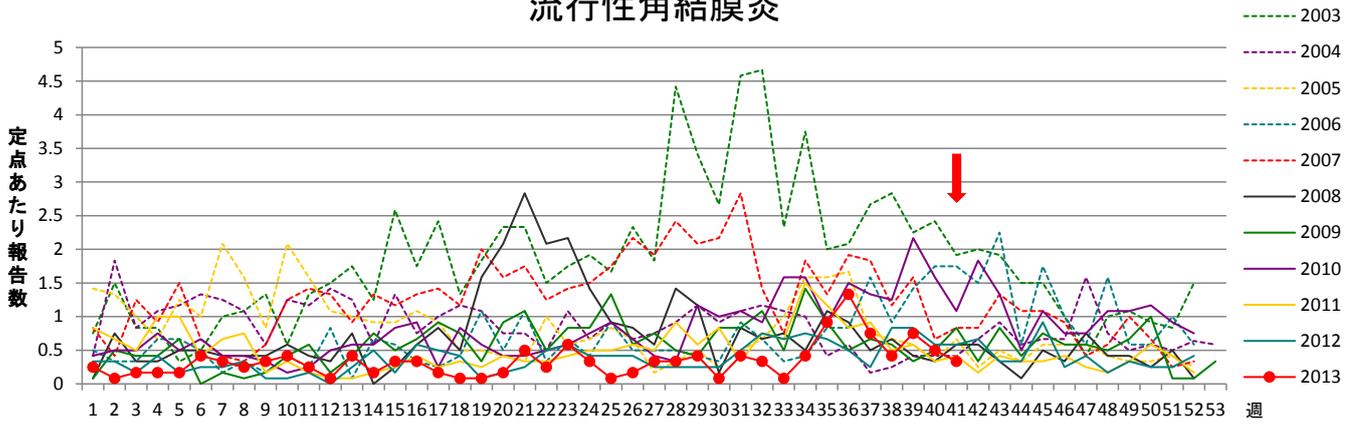
流行性耳下腺炎



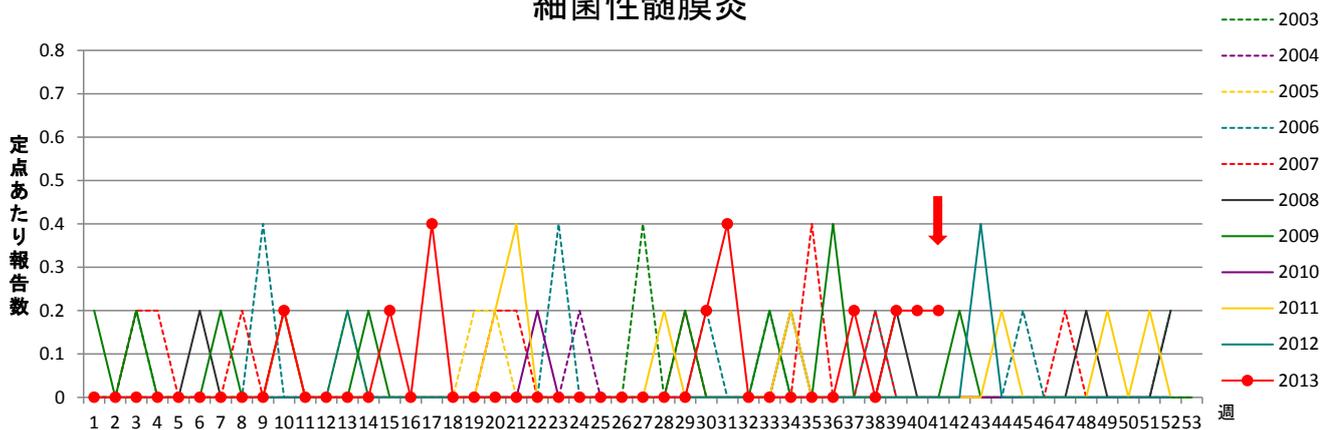
急性出血性結膜炎



流行性角結膜炎



細菌性髄膜炎



無菌性髄膜炎

